

第5次伊丹市総合計画

「市民版基本構想」

～ 「お互いさま」...とものにつくる

笑顔あふれるまち・いたみ～



平成21年10月3日(土)

総合計画策定市民会議

目 次

1 .はじめに	1
2 .市民会議の運営、内容	1
3 .提言内容	1
第1章 市民・行政・議会が相互にパートナーシップを築き、 誰もが主体的に関わるまち	2
(1) 参画と協働のまちづくり	2
(2) 市民自らが考え行動する市民自治の確立	3
(3) まちづくりに必要な情報をわかりやすく伝え、共有し、 自らも積極的に得る姿勢	4
第2章 安心して育て・育ち、生涯を通じて学ぶよろこびを感じ、 未来への可能性が広がるまち	6
(1) 子育て中の人が安心し、ゆとりを持って子育てができ、 地域や職場に温かく見守られるまち	6
(2) 「生きる力」を伸ばす充実した教育	7
(3) 生涯を通じて学ぶよろこびを感じ、成果を活かすことのできるまち	8
第3章 安心して暮らし、笑顔で「お互いさま」と言えるまち	9
(1) 安全で安心して暮らせるまち	9
(2) 心身とも健やかに過ごせるまち	10
(3) 地域でつながり、支え合い、発展させる	11
第4章 ともにつくりあげる 自然と利便性が調和した暮らしやすいまち	13
(1) 緑を守り育て、人にやさしい住環境を誇れるまち	13
(2) やさしさがつまった便利なまち	14
第5章 歴史・文化・産業を大切にし、活かし、 新しい魅力を創り出すまち	16
(1) 歴史・文化を大切に守り、活用し、新しく創り出す	16
(2) 「ふるさと」の魅力を高める	16
(3) 農業・工業・商業を守り、発展させ、活気のある産業の栄えるまち	17
4 .おわりに	18
【資料】	
資料 1 第5次伊丹市総合計画（基本構想） に関する提言について（依頼）	19
資料 2 「総合計画策定市民会議」委員名簿	20
資料 3 「総合計画策定市民会議」会議概要	21
資料 4 提言作成のもととなった事項（委員の意見）一覧	24
資料 5 提言に込めた市民会議委員の想い	29

伊丹市長 様

伊丹市総合計画策定市民会議

第5次伊丹市総合計画に係る基本構想に関する提言

1. はじめに

「伊丹市総合計画策定市民会議」(以下2.及び4.において「市民会議」という。)は、委員が考える伊丹のまちの将来像について考えてきました。委員からは好きな伊丹、伊丹のいいところ、或いは市民が抱えている問題や課題について248件の多くの意見が出されました。問題や課題についてはその解決策を考え、「こんなまちにしたい」という想いを提言書作成まで活発な意見を出し合い、検討を重ねてきました。

その検討過程において、「伊丹市まちづくり基本条例」の基本理念として掲げられている「熟議」を基本に、多様な市民が多くの時間をかけて議論を進めてきました。

また、市が本年1月に実施した市民意識調査も参考にし、変化の激しい時代に柔軟に対応できるように、市民、行政、議会が相互にパートナーシップをもち、市民誰もが主体的にまちづくりに関わる「参画と協働による市民自治」の必要性を確認しました。

11か月に及ぶ熟議を経て、ここに委員総意の提言をまとめるに至りました。

この提言を真摯に受け止めていただき、行政が策定される第5次伊丹市総合計画の基本構想、基本計画に反映していただきますようお願いいたします。

2. 市民会議の運営、内容

2008年11月から現在まで22回の全体委員会と、委員10名(市民7名、職員3名)による作業部会を21回にわたって開催してきました。

2009年8月29日には市民会議主催の「市民への報告と意見を聴く会」を開催し、委員を含め64名の参加があり、提言書の内容について熱心に議論がされました。

3. 提言内容

「お互いさま」・・・ともにつくる笑顔あふれるまち・いたみ

1. 市民・行政・議会が相互にパートナーシップを築き、誰もが主体的に関わるまち
2. 安心して育て・育ち、生涯を通じて学ぶよるこびを感じ、未来への可能性が広がるまち
3. 安心して暮らし、笑顔で「お互いさま」と言えるまち
4. ともにつくりあげる 自然と利便性が調和した暮らしやすいまち
5. 歴史・文化・産業を大切に、活かし、新しい魅力を創り出すまち

第1章 市民・行政・議会が相互にパートナーシップを築き、誰もが主体的に関わるまち

「わたしたちのまちは・わたしたちで考え・わたしたちでつくっていく」との想いを着実に実行するために、市民・行政・議会がパートナーシップを持ち、お互いの信頼関係のうえに市民自治の基本である参画・協働を進めていくことが重要です。

市民自治を進めていくことで、行政サービスのあり方、施策の優先順位、実行財源について市民の意思が組み込まれ、縦割りではない新しい時代に相応したまちづくりを目指します。

(1) 参画と協働のまちづくり

地方分権時代への対応を迫られる昨今、まちづくりの基軸を行政主導から市民の参画・協働へと転換が進みつつあります。

参画・協働をさらに進めるために、「わたしたちのまちをどうしたいのか？」市民一人ひとりがまちづくりの当事者であるという認識を持ち、自ら考え、責任を持って行動していくことが大切です。

行政は市民とともにあらためて参画・協働のあり方を見直すことも必要です。また、市民の代表である議会は、広く市民の中に入り、多様な市民の想いを聴くなど市民の声をより反映する仕組みづくりが必要だと考えます。

参画と協働の仕組みづくり

市民・行政・議会の役割を明確にし、多様な市民の意見が反映されるような仕組みをつくる必要があります。

多様な市民が話し合う場（委員会、懇話会、懇談会等）を設け、異なる意見や考えを市民相互で調整しながら、「行政への提言」をまとめる機会をつくり（例：総合計画策定市民会議）また、市民が話し合う場には、行政職員も市民と同じ立場で参加することが必要です。

また、議会は、市民から広く意見を聴き、住民参加による議会活動の基本として市民に開かれた議会とするため、本会議や委員会への傍聴制度にとどまらず、広く市民の中に入っていき場を積極的につくっていくことが求められています。

参画と協働を促進する意識づくり

一人ひとりがまちづくりの当事者であるという認識を持ち、市民・行政・議会相互の信頼関係を築き、自ら考え、責任を持って行動する必要があります。そのためには、それぞれの立場を否定・非難するのではなく、「お互いを尊重する」ことに軸を移し、対話を重ねていく意識が求められます。

現在、全市民対象に実施されている「(伊丹)市民まちづくりラウンド

テーブル¹」の活用、あるいは新たに小学校区ごとに開催するなど、市民が主体的に地域について語り合える場をつくっていくことも大事なことでと考えます。

参画と協働から生まれる新しい市政運営

行政は市民とともにあらためて参画・協働のあり方を見直す際には、行政サービスのあり方、施策の優先順位、実行財源などを市民とともに考えることができるようにすることが必要です。

行政が担っている公共サービスを市民とともに見直し、行政がすべきもの、市民との協働で行うもの、市民に委ねるもの等を、例えば行財政運営全般に関する意見を聴く場として、有識者、市民で構成されている「伊丹市行財政改革推進懇話会」等の審議で深めていくことが求められています。

現在の第5次総合計画策定の「総合計画策定市民会議」のような、市民が参画できる仕組みを保障し、行政はその内容を市民へわかりやすく公開することも必要だと考えます。

総合計画の実行・進捗について、現行の「市民意識調査」に加え、市民オンブズマン制度²を設けて検証を重ねていくことが大事なことだと思います。

(2) 市民自らが考え行動する市民自治の確立

市民生活の基盤である地域において、自治会などの組織を継続することが難しいとの声があります。それは自治会の役員の担い手が少ない現実や、自治会の役割について理解に差があることなどが挙げられています。

一方で、地域活動に参加したいが、参加しやすい仕組みになっていないという意見や、子どもの安全、高齢者の孤立を防ぐためには地域での見守りが必要不可欠であるとの切実な声もあります。

それらを解決するためには、まず市民一人ひとりが自分に何ができるかを考え、できることを地域に活かし、他人任せにせず自律した市民として自らが積極的に地域に関わる姿勢を持つことが大切です。

そのためには、市民相互、市民と行政が率直な意見交換ができる新しい仕組みをつくり、多世代がいきいきと暮らせる地域づくりを目指すことが必要です。

¹ ラウンドテーブル

市民が気軽に交流や対話を通じて情報交換したり、参加の呼びかけ協力の依頼、市民相互のつながりの場。ラウンドテーブルの呼称は参加者の座り順や上下関係を無視することができることから、「平等に意見を述べる」ということを意味・意図してつくられた。特定の課題を議論したり、問題解決、決定の場とは区別している。

² 市民オンブズマン制度

複数の市民から成る中立の監視・査定委員会。中立・公正な市民の立場で実行のチェックを行い、結果と改善等を行政に提言するとともに、市民に報告する。組織形態は官製、私製（市民有志）を問わない。

地域活動の担い手

市民相互、市民と行政が率直な意見交換を行い、課題を共有し、市民誰しもが地域の担い手として自覚し、主体的な地域づくりを目指すことが大切です。

既存のコミュニティ（自治会、老人会、地区社協、PTA等）と、目的別コミュニティ³の相互交流を積極的に進め、ともにまちづくりを進める共通した目標を認め合いながら、課題とその解決について協働していくことが必要です。

地域の課題や問題解決手法等を体験する「ファシリテーター⁴養成講座」、
「ワークショップ⁵体験講座」等を設け、多くの市民に学びの場を提供することも必要です。

(3) まちづくりに必要な情報をわかりやすく伝え、共有し、自らも積極的に得る姿勢

行政、議会はあらゆる方法を使って、行政情報・市民活動情報などを多様な市民にとってわかりやすく提供することを心掛けるとともに、市民は自ら積極的に情報を得よう努力し、市民同士も情報交換を行い、まちづくりに活かすことが大切です。

情報を伝え、共有する

行政、議会は多様な市民にとって、わかりやすい情報提供を心掛けることが求められています。また、市民に対して必要な情報公開の充実を図ることで、市民と情報を共有することは、参画と協働のまちづくりを進めていくうえで欠かせません。

行政は、その透明性を確保するため、「政策形成の過程」を含め、すべての情報を市民に積極的に説明する責任を負っています。

また、提供される情報は市民にとってわかりやすくなるよう工夫する努力が求められます。

議会は市民に、議会における意思決定の内容及びその経過を説明するため、現行の議会広報紙「議会だより」だけではなく、他の方法や手法を考え市民に対して情報の公開と説明責任を積極的に果たすことが求められています。

³ 目的別コミュニティ

市民が自主的に活動しているグループには、地縁型と呼ばれる既存の自治会等と、まちづくりや環境、子育て等の特定の分野において活動するグループがあり、後者のような特定の分野を掲げた活動をいう。

⁴ ファシリテーター

リーダーが会議を牽引するのではなく、参加者の主体を尊重しながら、会議が停滞、逸脱、混乱したとき、問いかけや復唱を行ない方向の修正を行う立場の人。

⁵ ワークショップ

従来 of 会議のあり方とは異なり、白紙の状態から意見交換を重ねて形をつくりだしていく対話型手法。

情報を得る

市民は自ら積極的に情報を得るよう努力し、市民相互の情報交換を行いまちづくりに活かすことが大切です。また提供されている情報に対して知る努力をせずに「知らない」という姿勢は、まちづくりに関わる市民の権利を狭めることとなります。行政情報やまちづくり情報に関心を持つことにより、市民にとってどのような情報が必要かを行政に対して求めていくことも必要です。

第2章 安心して育て・育ち、生涯を通じて学ぶよろこびを感じ、未来への可能性が広がるまち

本格的な少子高齢社会を迎え、「子育て・教育」といった分野での交流や支援においては、世代を問わず、社会全体で取り組んでいくことが、今以上に必要となってきます。

また、伊丹に住む子どもから高齢者までのすべての人が、生涯を通じて安心して育て・育ち、学ぶよろこびを感じ、自尊感情⁶を持って社会の中で何らかの役割を果たしていけるよう、人と人とのつながりを含めた「学習環境」が整ったまちを目指します。

(1) 子育て中の人安心して、ゆとりを持って子育てができ、地域や職場に温かく見守られるまち

少子化により、社会全体における子育て支援の重要性が叫ばれ、この10年ほどの間に、伊丹においても、こども部や保健センターを中心にした多くの支援事業が充実してきました。しかし、昔ながらの地域のつながりの希薄化や核家族化等と、あふれる子育て情報の狭間で、まだまだ自分だけで子育てを抱え込んでいる人も多いのが現状です。子育てをとりまくこのような現状を、市民みんなが理解したうえで、子育て中の誰もが安心して楽しく子育てできる環境をつくっていくことが必要です。

子どもを守り育てる

子どもは社会の「たから」であり「明日の担い手」です。市民が安心して子どもを持って、ゆとりを持って育てられるよう、親のみならず、地域の大人や子育てに関心のある学生が、声かけや保育ボランティアなど、一人ひとりのできる範囲で積極的に子育てに関わり、子どもたちを見守り育てていくまちを目指します。

誰もが安心して子育てできるサポート体制の充実

安心して出産・医療が受けられる医療体制、適切な情報を提供できる相談窓口、保育の充実や仲間作りといった時代のニーズを的確に把握した事業等を通じて、子育て中の人、経済的・時間的・精神的に、ゆとりを持って子育てができるようなサポート体制の、更なる充実を目指します。

子どもの権利を守る

すべての子どもは、一人の人間として尊重され、良い環境の中で育て

⁶ 自尊感情 (self esteem ; セルフエスティーム)

外見・性格・特技・長所短所・自分の持っている病気やハンディキャップなどすべてを含んだ「自分」が、存在していること自体に価値があると認める、「自分に対する肯定的な感情」のこと。

られることで個性と能力を発揮することができます。社会の一員として幸せに成長できる権利が尊重されるという認識を高め、子どもをとりまく環境を整えることが求められます。

仕事と子育ての両立のための保育環境の充実

仕事を持ちながらも安心して子育てができるよう、男性も女性も育児休暇などが取得しやすいように、職場全体が子育てについて理解のある環境づくりを目指します。

また、そのためにも、保育所・幼稚園・認定こども園・学校・児童くらぶ・企業内保育所等の充実を図ることが必要です。

(2) 「生きる力」を伸ばす充実した教育

これからの未来を生きていくために、一人ひとりの子どもにとって、「豊かな心」、「健やかな体」そして「確かな学力」のいずれもが必要不可欠です。

学校ではもちろんのこと家庭や地域においても、「ほめてもらえた」「認めてもらえた」「頑張ったらできた」といった、小さな成功体験の積み重ねによって、自分に自信を持ち、自分を大事に思う気持ちを育て、それがひいては人への思いやりの気持ちへとつながるような、心の交流がなされることが大切です。

また、市内の学校現場では、PTAと学校が協力して、学力向上に向けての様々な取り組みが展開されつつあります。今後も、子どもたちが確かな学力を身につけることができるよう、客観的な現状把握と分析を基にした取り組みを継続していくことが重要です。

「豊かな心」や「健やかな体」を育てる教育

豊かな人間性やコミュニケーション能力、基礎的な体力や心身の健康などを育むため、学校だけでなく、家庭・地域・公共施設等が連携を取って、体験や交流を大事にした学習に取り組むまちを目指します。

「自尊感情」を育む教育

いじめや不登校、虐待など、子どもにかかわる問題の影には、「自尊感情」の低下が認められる事例が多くあります。「自尊感情」を育む教育を、学校や家庭が協力して充実させることにより、一人ひとりの子どもが、自分も相手も大切に、互いに高めあって可能性を広げ、社会に貢献できるまちを目指します。

「確かな学力」を育てる教育

学び、時には教えることも体験しながら、学習することの楽しさを感じることでできる教育を充実させ、一人ひとりの子どもの学力の向上を

図ります。その結果として、「学校教育が充実しているから伊丹に住みたい」と思えるまちを目指します。

(3) 生涯を通じて学ぶよろこびを感じ、成果を活かすことのできるまち

団塊の世代の大量退職をきっかけに、生涯学習の「場」が今後ますます重要性を持ってきます。そこには、ともに学ぶ仲間、教え・教えられる関係など、世代や地域を越えた幅広い年齢層の様々なネットワークが生まれる可能性があります。

「学び」を「個人の学び」「自分の楽しみ」だけでなく、「地域に活かす」ことができるよう、具体的な方法を工夫したり、プログラム（企画・内容）の充実を図っていく必要があります。

施設やプログラムの充実

一人ひとりが、自らの夢を見つけ、実現するために、充分学ぶことができる環境が充実したまち。地域・家庭・学校・職場で、ともに学び合い、語り合えるまち。さらに、大学・施設・地域が連携し、特徴ある学習プログラムを生み出すまちを目指します。

学びを軸とした地域交流と、学びの地域への還元

学びの場での交流から、地域や人の魅力・価値が発見できるまちを目指します。また、学びが一人ひとりの能力の開花や生きがいにつながり、それをまちの発展や人々のために活かすことができるまちを目指します。

第3章 安心して暮らし、笑顔で「お互いさま」と言えるまち

私たちは、一人だけで暮らすことはできません。

家族や隣近所、学校や職場など、それぞれの地域社会の中で、「支え合い」、「助け合い」ながら暮らしています。

「阪神・淡路大震災」のとき、地域の支え合う力が極めて大切であることを痛感しました。地震災害だけではなく、風水害、火災、あるいは新型インフルエンザなどの危機、さらには、身近な地域の防犯なども、行政と市民や事業者が連携することで、安全・安心を得ることができます。

また、安心して暮らすためには、市民一人ひとりの健康も大切です。健康を維持し、心健やかに過ごすために、病気や介護の予防に努めることや、医療体制の充実、介護のしやすい環境の整備などが重要です。

地域の人と人がお互いに知り合い、認め合い、つながり、心から「お互いさま」と言える、住み心地のよいまち、そして誰もが笑顔で暮らせる安全・安心なまちを目指します。

(1) 安全で安心して暮らせるまち

生命の安全と財産が守られ、安心して暮らせることは生活の基盤です。

伊丹は過去に大きな水害や震災を経験しました。とくに「阪神・淡路大震災」の救助活動や復旧・復興の過程において、家族や隣近所、友人など地域の力が極めて大切なことを、あらためて痛感しました。その経験を「伝え・活かし」、今世紀前半に起きると予想される「巨大地震」に備えることが必要です。

地震以外にも、風水害や火災、また世界中で恐れられている新型インフルエンザなどにも対応するため、危機管理体制を整備することが重要です。とくに、被害を最小限にとどめるために必要な速やかな情報の提供や、素早い対応ができる仕組みづくりが求められています。

行政・市民・事業者が力を合わせ、日頃から防災や防犯の意識を高め、危機管理に対応できる仕組みを整備し、安全・安心なまちを目指します。

災害に強いまち

行政は、地震や風水害など、自然災害に強いまちにするため、学校や社会福祉施設、防災拠点となる公共・公益施設などの安全対策を充実させることが重要です。

また、防災などについて学ぶことができる防災教室などの場を提供するとともに、市民や事業者と協力して、災害の広がり方や、市民の動きを予測するシミュレーションなどを行い、被害を軽減するために必要なわかりやすい情報を提供し、具体的な避難行動ができる仕組みなどをつくることが重要です。

また、火災の発生に備え、すぐ消火活動ができる消防救急機能の充実

や、延焼拡大防止、災害時の避難施設となる緑地や公園の整備などを充実するとともに、市民や事業者が、家屋・工場建物などの耐火・耐震対策を促進することができる仕組みなど、ハード・ソフト両面の対策も必要です。

市民も、日頃から、地域に密着した防災訓練や避難訓練などを行い、身を守る方法や、被害を軽減するための知恵を積極的に学び、いざというときに、自ら避難行動などができる知恵を得ることが重要です。

危機意識の高いまちづくり

大災害や新型インフルエンザなど、社会機能に大きく影響をおよぼす危機に、速やかに対応するための体制づくりが重要です。速く正確な情報の伝達方法や、避難場所など、市民にとって重要な情報を、誰もが周知できる仕組みが必要です。

災害や新型インフルエンザなどの危機に対応する復旧資材や医療品の備蓄なども重要です。

行政と市民、事業者、さらに市立病院などが協力し、日頃から危機意識を持つことが必要です。いざというときに、あわてず行動するための事前の計画や、模擬訓練などを行い、危機に対応できる知識と知恵を得ることが重要です。

地域の安全を守る

通園、通学路、学校さらに公園や商業施設などでは、子どもの身の安全を守る対策や、防犯体制の充実が必要となり、警察や教育委員会、PTA、さらに地域全体で子どもの安全を見守ることが重要です。現在も、地域の見守り組織などが活躍していますが、地域の高齢者などの人材を活かし、地域全体で取り組む仕組みが必要です。

また、現在、「子どもの安全に対する情報」や「不審者情報」なども、電子メールなどで配信していますが、さらに市民や事業者が協力し、「振り込め詐欺」や「空き巣」情報など、子どもから高齢者まで、市民みんなの安全・安心を守る取り組みが必要です。

(2) 心身とも健やかに過ごせるまち

子どもから高齢者まで健康を維持し、心健やかに過ごせるまちを、みんなが望んでいます。そのためには、行政や医療機関及び市民の連携による地域医療体制の充実が必要です。

また、急速に高齢社会が進む中、誰にとっても「介護」の問題が身近なものとなってきました。高齢者などが安心して暮らせる仕組みが必要です。

健康な生活を楽しむ

健康づくりは「きっかけ」が重要です。

行政は、正しい健康づくりの情報を提供するとともに、気軽に体を動かすことのできるスポーツ施設などを充実することが重要です。

市民は、自らが健康の維持増進に努め、心身ともに健康な生活を送ることが大切です。

また、病気の予防や早期発見のために、市民は積極的に定期的な検診を受け、行政も、検診率向上のための工夫が必要です。

みんなで作る地域医療

行政や地域の医療機関、高齢者施設などがともに連携協力し、子どもから高齢者まで、「必要な時に必要な医療」を受けられる、安心できる医療体制を整えることが必要です。

また、市立病院は、地域医療の中心的な担い手として必要とされる医療を提供するとともに、地域全体の医療の質の向上に努めることが必要です。

近年、「医療崩壊」が各地で叫ばれる中、伊丹の医療を守るためには、市民自身が、地域の医療体制について学び、かかりつけ医の役割や、救急医療の適正な受診など、正しい知識を得ることが重要です。行政・医療機関・市民がともに協力して、医療のあり方を考える場をつくり、地域医療体制を支える仕組みをつくることが重要です。

安心して介護ができるまち

介護を必要とする人や介護をする人が、ともに安心して介護にたずさわることができるように、介護施設の充実や、ケアマネジャー等への相談体制の充実が必要です。

介護を個人の問題として捉えるのではなく、自宅で介護する家族が孤立せずに相談できる窓口や人材の整備が必要です。さらに、男女の区別なく、また、働きながらも介護ができるように、休暇や短時間就業等、事業者等の協力を得るなどの仕組みをつくり、一人で抱え込むことなく、社会全体で支え合うことが重要です。

(3) 地域でつながり、支え合い、発展させる

市民は、お互いに認め合い、尊重し合い、支え合うことが必要です。現在、市内では福祉や子どもの育成、高齢者の見守りなどのボランティアの輪が広がりつつあります。

今後は、これら多くの市民が連携して活動することが必要です。そのためには、相互に情報交換を行い、お互いが信頼して関われる地域に根ざしたまちづくりが必要です。

行政には、そのためのサポートを行うことが求められています。

多様な市民を認め合うまち

障がいを持つ人、外国籍の人や男女の区別なく、子どもから高齢者までが、分け隔てなく緩やかにつながり、よろこびといたわりを共有し、一人ひとりを尊重する社会をつくる必要があります。そのために、学習だけでなく多様な市民が交流できる場や機会を増やし、積極的に参加することが大切です。

人と人がつながり、支え合う

自分たちでできることは自分たちで解決するために、地域の防災、防犯、子どもの育成、高齢者の見守り、介護、福祉などについて、地域の人々がもっと関心を持ち、お互いに協力して支え合う必要があります。

現在、個人情報保護への過度の対応や、防犯的観点により、地域の情報共有が困難になっている場合があります。基本的な人権を侵すこと無く、情報を共有する仕組みをつくり、お互いが信頼して関われる、地域に根ざしたまちづくりが必要です。

第4章 ともにつくりあげる 自然と利便性が調和した暮らしやすいまち

快適な生活や利便性、効率を追求するあまり、現代社会では大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造が定着し、限りある資源の無駄遣いや次世代にまで影響を及ぼすような環境破壊を引き起こしています。

地球温暖化をはじめとするすべての環境問題に対しては、グローバルに（大きな視野を持って）考えて、ローカルに（足元から）行動することが大切です。

太陽光発電のような環境への負荷が少ない技術の普及・推進に取り組む事も重要ですが、同時に私たち市民一人ひとりの行動を積み重ねると大きな力になるという意識を持ち、毎日の生活の中で環境にやさしい取り組みを取り入れることが重要です。

都市環境の整備については、市民相互、市民と行政が対話を重ねることで、まちの将来の姿を共有し、ともにつくりあげることが大切であり、自然環境と都市機能を調和させる取り組みを推進することによって、持続可能な環境への負担の少ない循環型のまちを目指します。

（1）緑を守り育て、人にやさしい住環境を誇れるまち

伊丹は都市部でありながら、昆陽池公園や伊丹緑道をはじめとする自然環境が豊かなまちです。生活に潤いを与える自然環境を守り・育てることに行政と市民が協働して取り組み、地域の中で積極的に緑化を進め、守っていく仕組みづくりが必要です。

身近な自然環境をともに守り・育てる

昆陽池公園をはじめ荒牧バラ公園、緑ヶ丘公園など他市から訪れる人も多い憩いの場は、市民にとっても誇れる自然環境です。また、市民が主体となって地域の花壇を育てる活動も盛んに行われています。

市民は、主体的に身近な美しい自然環境を守り、育て、暮らしの中で自然を楽しむことができる潤いのあるまちづくりを進めることが大切です。

今後もさらに市民の主体性を尊重して緑化を進めるために、行政が公園を「維持・管理」するのではなく、地域住民をサポートし、地域住民が公園を「育てる」取り組み、例えば公園アダプト制度や、昆陽池公園等の植物や生物等の自然を再生する取り組みを推進することで、市民が地域や地域資源に対する愛着を持つ工夫を行うことが求められています。

また、打ち水や壁面緑化等、市民一人ひとりのライフスタイルを見直すきっかけとして、現在、行政が行っている事業を教育現場や家庭に積極的に取り入れ、環境についての教育を一層充実させることが必要です。

緑化の推進・保全を進めるにあたっては、そのあり方の検討について、市民が積極的に参加できる仕組みづくりが必要です。

環境にやさしい循環型のまちづくり

現在の環境を保護し再生するためには、環境の変化や開発により失われた自然や生物を再生する取り組みが重要です。市民による再生活動等も行われていますが、行政は市民とともにさらなる取り組みを進めることも必要です。

持続可能な循環型のまちをつくるため、行政の環境対策の取り組みとして、現在、市民と協働で行う「伊丹市環境マネジメントシステム⁷」が導入されています。日常の業務の中で、リサイクルをはじめとする「5R⁸」に取り組むことで今後も環境保護に努め、また、市民も毎日の生活の中で「5R」を意識し、次世代に豊かな環境を残せるよう努力することも大切です。

一方、マイカーの利用を減らすために、公共交通機関である市バスの利用を促進する等、市と市民、事業者が一体となって環境にやさしい循環型の持続可能なまちづくりを進めることが求められています。

(2) やさしさがつまった便利なまち

伊丹は、市内に市バスの路線網が敷かれ、大阪や神戸へは鉄道により容易にアクセスが可能であり、空港があることによって全国へ飛び立つ事も可能です。都市基盤としての幹線道路をはじめとするインフラ整備（道路や河川、公園等の社会資本整備）が一段落し、今後は暮らしの便利さを追求するだけでなく、人へのやさしさがあふれるまちの実現が求められています。

すべての人にやさしい都市整備

行政は、これまでのヒトやモノの流れを重視した道路整備だけではなく、高齢者や障がいを持つ人、子どもたちをはじめとしたすべての市民が、安全に利用できる道路整備などが必要です。誰もが安心して気持ちよく歩いたり、自転車で走りやすい道路を考えることなどで、多様な市民にやさしいまちづくりを進めることが大切です。

また、街路樹の剪定やカーブミラーの設置等、これまで行政の責任で行ってきたものも含めて、市民が自分たちの住む地域のインフラ整備を自分

⁷ 伊丹市環境マネジメントシステム

「環境方針」を策定し、その実現に向け、目的・目標を設定した「計画(Plan)」を作成、それを「実施及び運用(Do)」し、結果を「点検及び是正処置(Check)」したうえで、「見直し(Action)」を繰り返す「PDCAサイクル」により環境活動を推進することで、環境に与える負の影響を継続的に改善する仕組みのことで、伊丹ではこれらの取り組みの中に、積極的に市民参画を取り入れた運用を行っています。

⁸ 5R

Reduce (リデュース): 資源・エネルギーの投入量を減らす
Reuse (リユース): 繰り返して使う
Recycle (リサイクル): 再生利用する
Refuse (リヒューズ): 過剰包装などを断る
Repair (リペア): 修理して使う

たちの責任と自主性を持って考えるとともに、知恵と工夫を活かした、人にやさしい地域づくりを進めることが必要です。

その実現のためには、地域住民の合意を形成することのできる仕組みをつくることが求められます。

地域資源を活かしたまちづくり

高齢者や障がいを持つ人だけでなく、市外に通勤・通学する市民等、多くの市民にとって市バスは大切な交通手段であり、暮らしを支えるうえで、その存続・充実が強く求められています。

しかし、それらは限りある財源の上に成り立っていることを意識し、市バスのあり方を行政と市民が真剣に考え、経営を持続可能なものとするすることで、便利で暮らしやすいまちを次世代に引き継いでいかなければなりません。

また、伊丹は空港のあるまちとして知られていますが、騒音等の問題もあり、市民の中でも様々な意見があります。しかし、広大な空港周辺緑地（伊丹スカイパーク）の活用など、市民の憩える場を充実させることで、事業者や利用する人だけでなく、周辺住民も含めたすべての市民にとって「誰もが自慢できる」空港となることを目指し、空港を活かしたまちづくりを進めることが大切です。

第5章 歴史・文化・産業を大切にし、活かし、新しい魅力を創り出すまち

歴史ある産業や文化を受け継ぎ育て、次世代につなぐだけでなく、これからの伊丹にふさわしい新しい産業や文化を創り出します。

また、農業・工業・商業が、モノだけでなく人材や雇用を創り出し、まちに賑わいをもたらすことで、活力あふれる魅力あるまちを目指します。

(1) 歴史・文化を大切に守り、活用し、新しく創り出す

伊丹は古くから摂津地方の中心地として栄え、有岡城や伊丹廃寺といった史跡や僧行基ゆかりの昆陽池などの歴史的遺産も多く、江戸時代には酒造業を中心とする産業や俳諧などの文化も栄えたまちでした。

これらの伊丹の歴史と有形無形の文化遺産を守り、次世代に継承していくことが必要です。

また、受け継ぐだけでなく、それらに広く市民が親しみ、市民の豊かな心と創造性を育み、新しい文化を創造していくことを目指します。

歴史・文化を守り受け継ぐ

伊丹の豊かな歴史と文化遺産、有形無形の文化財を受け継ぐため史跡散策をする機会を増やし、市民活動を充実し、市民と行政が一体となって、市民に身近な文化財となるよう努めることが必要です。

歴史・文化や文化財の活用

すべての市民が固有の文化財に触れ・親しみ・活用できるようにし、心豊かな人と文化を育てられるまちにすることが必要です。

このため、図書館・博物館などが拠点となり、市民が利用しやすい場にするとともに、各施設は、広く市民が日常的に文化に親しむことができるような機会を多くつくるなど、幅広い活動を展開することが必要です。

新しい地域文化の創出

歴史・文化を活用し、「ことば文化都市伊丹」などまちの個性と市民一人ひとりの個性を活かして、感性を磨くとともに新しい地域の文化を創り出すことを目指します。

(2) 「ふるさと」の魅力を高める

すべての市民が、「ふるさと」と思えるように、新旧の祭り・イベントなどを活発化させ、市民みんなが一体となれることを目指します。

市民の草の根的な様々な活動の活性化と同時に、行政や企業・団体などの活動を支援する取り組みの活性化をはかることが必要です。

賑わいのあるまち

みんながひとつになれる祭り・イベントを活性化し、まちの個性や魅力を創り出し、みんなが一体感を持てる、賑わいのあるまちを目指します。

魅力あるまちの担い手

市民自らが主体となり祭りやイベントを企画・運営し行政はそれを支援することにより、活発な文化活動・交流を生み出します。

(3) 農業・工業・商業を守り、発展させ、活気のある産業の栄えるまち

賑わいと活気のある住みよいまちにするためには、生産や商業活動・労働を活発にし、それを通じて人を育て、社会の基盤を作り出すことが大切です。

農業・工業・商業の調和のとれた発展したまちを目指します。

農業を重要な産業に

自然にやさしい環境をつくりながら、同時に安全・安心な食料とその担い手をつくり出す農業を重要な産業と位置づけて、従来からの農業の基盤を守るとともに、全国的にも優れた「接木技術」を用いた南京桃など伊丹ならではの特産物を広めることを目指します。

また、地産地消を発展させ、生産と消費の親しみのある関係を生み出します。

工業の発展と雇用の確保

まちにやさしい工業を発展させ、社会の基盤を創り出すとともに、市民にとって働く場を生み出す必要があります。安定して健康に働ける良好な労働環境の整備も大切です。

また、清酒発祥の地、伊丹にふさわしい古くからある酒造業などを守り育てるだけでなく、特産品なども活用して地域の活性化につながる新しい工業の創出と発展をはかり、そのためにも情報化社会に対応・先行して高度情報化の基盤の確立を目指します。

商店街・商業施設の調和のとれた発展

生活の場の近くにある商店街は単に商業の担い手であるばかりではなく、まちの人々をつなぎ、生活全体を支え合う場としても大切です。人と人の顔が見える商店街の活性化をはかりながら、若者も集う活気のある新しい近代的商業施設との調和のとれた発展を目指し、市民・事業者・行政が一体となって活力あるまちを育みます。

4 . おわりに

この市民会議は通常の委員会にみられる「座長」等の設置を行わず、参加している委員の総意が得られるよう、限られた期間の中で委員の想いを最大限に尊重する運営を行ってきました。

当初は運営方法に戸惑いを覚える委員も多く、先が見えないことに不安の声も聞かれることがありました。しかし、回を重ねるごとに提言作成の目標に向けて、力を合わせることができました。

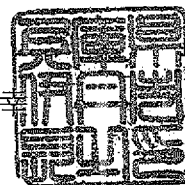
ときに委員の考えがぶつかることや、堂々巡りを繰り返すこともありましたが、委員相互の節度と道理をもって困難を乗り越え、自律した委員による熟議を体現してきました。

私たち委員は、提言書作成を以って終わりとすることなく、今後制定される第5次伊丹市総合計画がまちづくりの中で活かされ、市民生活の中に有効な施策となって進められることを、市民の目線で確認し、検証していく仕組みが必要と考えています。

伊政政第281号
平成20年11月1日

伊丹市総合計画策定市民会議委員 各位

伊丹市長 藤原 保幸



第5次伊丹市総合計画（基本構想）に関する提言について（依頼）

時代は大きな転換期を迎えています。国としてこれまでに経験したことがない人口減少時代への突入、社会保障制度のあり方の議論、世界的な金融不安に伴う経済の悪化など、これまでの仕組みでは立ち行かない状況となってきています。また、今後の行政のあり方としては、国による中央集権の時代から地方分権の時代へと更に加速することが見込まれます。

このような時代背景の中、先行きが不透明な社会経済環境に的確に対応し、力強い伊丹市のまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりが、安全で安心して地域の中で暮らせるまちづくりの役割を担うとともに、市民と市が、ともに考え、ともに行動し、ともに支えることによって、夢と魅力のある伊丹のまちづくりへと発展させることが重要だと考えております。

このようなことから、今回の第5次総合計画の策定にあたっては、行政のみで計画策定を行うのではなく、市民の皆様に、10年後の伊丹市の将来像や方向性について議論していただき、計画策定に役立てたいと考えております。

委員各位の地域での活動や日頃の暮らしの中から得られました様々な経験や教訓をもとに、活発な議論をいただき、総合計画における基本構想に関するご提言を、平成21年8月末に賜りますようお願い申し上げます。

資料 - 2 「総合計画策定市民会議」委員名簿

総合計画策定市民会議 委員名簿 (50音順)

	氏名	選出団体等
1	相原 信也	伊丹市体育協会
2	有岡 章秀	伊丹市保健衛生推進連合会
3	有賀 悦子	公募委員
4	石田 忠嗣	公募委員
5	井上 裕介	市職員
6	内田 勝雄	公募委員
7	榎木 光夫	伊丹市自治会連合会
8	大河原 大輔	公募委員
9	大木 篤	伊丹市医師会
10	大澤 公子	伊丹市民生児童委員連合会
11	大路 周宏	伊丹青年会議所
12	大林 千雪	公募委員
13	小野 慎治	市職員
14	唐澤 直洋	市職員
15	越 希美江	市職員
16	小山 達也	伊丹市社会福祉協議会
17	阪部 三栄子	伊丹市消費者団体連絡協議会
18	迫 浩二	伊丹労働者福祉協議会
19	笹尾 博之	公募委員
20	佐藤 友治	市職員
21	佐野 祐美子	公募委員
22	下田 雅子	公募委員
23	須磨 俊仁	伊丹市PTA連合会
24	相馬 房雄	公募委員
25	武田 宣温	伊丹市老人クラブ連合会
26	竹之内 豊	公募委員
27	田爪 景子	公募委員
28	田中 香織	市職員
29	田中 カルメン	外国人市民の会
30	中村 宏子	公募委員
31	西濱 靖雄	公募委員
32	波多江 みゆき	公募委員
33	浜野 匡	市職員
34	宮崎 裕子	公募委員
35	宮地 輝彦	伊丹商工会議所
36	村上 敦子	公募委員
37	山崎 千秋	子育てサークルネットワーク
38	吉田 卓	市職員
39	吉原 勝	伊丹心身障害対策市民懇談会
40	脇阪 尊	兵庫六甲農業協同組合
	コーディネーター	久 隆浩(近畿大学教授)

資料 - 3 「総合計画策定市民会議」会議概要

開催回数		開催日	出席	傍聴	会議概要
全体	第1回	08/11/1	33	-	委嘱状交付 委員の自己紹介 座長・副座長の選任について(委員が必要に応じて発議した時点で選任する。) 会の公開について(公開する。公開方法については次回に検討する。)
全体	第2回	08/11/15	33	1	会の公開について(傍聴者の発言は不可。会の終了後にアンケートにより意見を提出することは可。) 今後の会議日程について(月2回程度開催) 議事録の作成について(内容は概要とする)
全体	第3回	08/11/30	31	1	会の公開、会議日程、司会、議事録の作成等について検討。各委員の想いを自己紹介形式で発表し、その後グループに分かれ想いを話し合う。
全体	第4回	08/12/9	30	-	グループに分かれ想いを話し合い、その内容をグループの代表者が発表し全体で共有する。
全体	第5回	08/12/23	33	-	グループに分かれ、テーマの設定も含め自由に話し合う、その内容をグループの代表が発表し全体で共有する。
全体	第6回	09/1/11	27	1	前回同様、グループに分かれ、テーマの設定も含め自由に話し合い、その内容をグループの代表が発表し全体で共有する。
全体	第7回	09/1/24	28	1	今後の会の進め方について、グループに分かれて議論し発表する。(前回までのグループでの意見を全てデータ化し、全体で共有する。)
全体	第8回	09/2/8	29	1	これまでのグループワークを集約した資料について、分析や活用方法等を検討する。グループに分かれ、グループワークを集約した資料の内容について、わからなかった項目を全体で共有する。
全体	第9回	09/2/28	26	2	前回に引き続き、これまでのグループワークを集約した資料の内容について、全体で共通認識を深める。
全体	第10回	09/3/8	28	1	今後の会の運営方法や手法等について、グループに分かれ議論する。
全体	第11回	09/3/28	26	-	運営委員会(作業グループ)設置の是非について、全体で議論する。(設置の是非については、次回に決定することとし、次回会議の運営方法については、今回と次回の司会等のメンバーが提案する。)
全体	第12回	09/4/8	26	1	これまでのグループワークを集約した資料に、追加したい事項についてグループに分かれ議論する。各事項をテーマ分けする前段として、必要なテーマを検討する。
全体	第13回	09/4/25	30	2	前回のグループ代表者と、今回の司会グループで、追加する事項やテーマの設定、固定の作業グループの設置について提案。(固定の作業グループの設置とメンバーの決定)
作業G	第1回	09/5/2	6		今後のスケジュールの検討
作業G	第2回	09/5/9	8		これまでのグループワークでの意見等について、グループ分けし模造紙へまとめる。
全体	第14回	09/5/10	25	1	今後のスケジュールを検討(「市民への報告と意見を聴く会」の開催の決定。) これまでの意見(全241事項)の分類について、分類の名称等を全体で議論。
作業G	第3回	09/5/13	7	-	分類した5つのテーマの文章化を行う。(テーマ1～3まで作成)

資料 - 3 「総合計画策定市民会議」会議概要

開催回数		開催日	出席	傍聴	会議概要
作業G	第4回	09/5/18	8	-	引き続き、分類した5つのテーマの文章化を行う。
作業G	第5回	09/6/2	6	-	次回の全体会への提出資料の検討。
作業G	第6回	09/6/4	8	-	5つのテーマについて、下に続く柱立て(3項目程度)の検討。
作業G	第7回	09/6/9	7	-	引き続き、5つのテーマについて、下に続く柱立て(3項目程度)の検討。今後のスケジュールの検討。次回の全体会進行方法について検討。
全体	第15回	09/6/14	31	2	今後の市民会議の開催日程について議論。(9月末まで会議を延長する。) 分類した5つのテーマを作業グループが文章化した案について、全体で検討する。(テーマ1、2の決定)
作業G	第8回	09/6/19	9	-	次回以降の全体会の進行方法について検討。
作業G	第9回	09/6/24	9	-	次回の全体会の進行について検討。各テーマの構成について検討。
全体	第16回	09/6/27	21	1	前回は引き続き、残りのテーマの文章化した案について、全体で検討する。(全テーマの決定)
作業G	第10回	09/7/3	9	-	次回全体会でのグループワークの方法について検討。各テーマの構成について検討。
作業G	第11回	09/7/8	8	-	前回は引き続き、次回全体会でのグループワークの方法について検討。各テーマの内容(文章)について検討。
作業G	第12回	09/7/11	9	-	前回は引き続き、各テーマの内容(文章)について検討。
全体	第17回	09/7/12	25	-	テーマ毎に作業グループが提案するワールドカフェ方式で、グループに分かれ議論する。
作業G	第13回	09/7/13	7	-	各テーマの内容(文章)について検討。
作業G	第14回	09/7/16	7	-	前回は引き続き、各テーマの内容(文章)について検討。
全体	第18回	09/7/25	27	2	作業グループが文章化した5つのテーマについて、全体で議論を進める。
作業G	第15回	09/7/29	7	-	「市民への報告と意見を聴く会」の概要について検討。市民版基本構想について検討。
作業G	第16回	09/7/30	8	-	市民版基本構想に係る「キャッチコピー」の検討。前回の全体会での意見を踏まえ、各テーマの内容について検討。

資料 - 3 「総合計画策定市民会議」会議概要

開催回数		開催日	出席	傍聴	会議概要
作業G	第17回	09/8/3	8	-	前回に引き続き、前回の全体会での意見をふまえ、各テーマの内容について検討。
作業G	第18回	09/8/5	8	-	前回に引き続き、前回の全体会での意見を踏まえ、各テーマの内容について検討。 次回全体会の進行等について検討。
全体	第19回	09/8/9	28	5	作業グループが文章化した5つのテーマについて、全体で議論を進める。
作業G	第19回	09/8/13	9	-	提言書構成等について検討。「市民への報告と意見を聴く会」の進行等について検討。
作業G	第20回	09/8/20	9	-	提言書内容等について検討。「市民への報告と意見を聴く会」の進行等、詳細について検討。 次回全体会の進行等について検討。
全体	第20回	09/8/22	22	-	前回会議での意見を踏まえての修正等報告。「市民への報告と意見を聴く会」について、当日の進行や役割等を決定。
市民への報告と意見を聴く会		09/8/29	64 (委員含む)		市民会議委員が、市民会議でのこれまでの取り組み内容や、「市民版基本構想」(案)を市民へ報告し、意見交換を行う。
作業G	第21回	09/9/3	9	-	「市民への報告と意見を聴く会」での意見等を踏まえ、提言内容の修正等について検討。
全体	第21回	09/9/13	27	2	「市民への報告と意見を聴く会」での意見等を踏まえ、提言内容の修正等について検討。 市長への提言について。 次回市民会議(9/26)の進行について。
全体	第22回	09/9/26	19	-	これまでの市民会議を振り返って(感想・今後への抱負等)グループに分かれて意見交換。

事項
創る・文化
地域振興
大型ショッピングセンター
指定管理者制度。もっともうけてもいいのでは？宮ノ前P:予算削減のみ×施設にもよる
welcome
他市から人を呼び込む工夫(ハード面)
市内で働く場を増やす(企業誘致)
子育て支援の充実を売りにしてはどうか
地産地消
農業
賑いのあるまち
産業の活性があるまち
地域就労の受け皿
食べ物がおいしい
賑わう
伊丹を見る日
伊丹を考える日
いい活動を広げる方法って!?
楽しいことの企画
楽しく参加できるキッカケ作りや行事を提案
仕組みを作る 他につなげていく 次を考えていく
「いたみワッショイ」(伊丹市)「ワッショイいたみ」違いわからない
市民が楽しめるイベントが欲しい(バラバラに開催しているイベントなどをまとめる)
市民が1つになれる行事が欲しい 子どもの時から地域で活動していれば「まち」を大事にする
(空白)
伊丹のよさを再認識しないと大事なことはなくなっていく
伊丹の特色
伊丹=酒 食
村の財産
歴史を活かす
歴史を活かす
歴史があるまち
文化
山もない海もない、だけど がある街づくり
学ぶ・育てる
生涯教育(学習)
公民館等の講座など、途中からは入りにくい
人が元気
教育が充実(知るよこび)
ことば文化を推進していきたい
遊びながら学べる施設がほしい
子どもと共に学べる施設
老後も楽しく遊べるまち
家庭
プライバシー 家庭の事情が 話し合う機会を少なくする
親の環境。親の問題
親・子ともに余裕が必要
[親育ち]子育ての基礎は親育ち(親の不安によって子がより一層不安になる)
保育
子育て
子育て
子育てに欲しいもの 託児所 ファミリーサポートは使いにくい
仕事をしたいが保育所に入れられない
待機児童ゼロへ
学童保育の充実
学校教育
私立の中・高校がない
中・高校で飛びぬけて出来る子がいない
人間性を伸ばす教育が必要
学力
学校教育を重視
学校教育が昔と違ってかなり乱れている。立て直しが必要。
定住したくなるまちづくり=学齢期になると転居する=
市(国)の未来は子供達(教育・子育て)に100%かかっている。教育が最重要。
地域
これからの役割(高齢者の役割:安心安全、子供達と見回り隊)

子どもを通じてつながる
子は地域のかすがいい!(高齢者・障害者)
地域と教育・子育ての連携
地域で子どもを育てる
親も子どももフレッシュできるところが欲しい
虐待等の情報の集約と分かりやすさ
運動・文化の体験機会(こどもがいろいろ体験できる)
子ども同士のつながりを持てるきっかけ
全ての子どもに温かい支援を
学校等の空き教室の地域への開放と子供たちとの交流
遊びの場(運動場・ボール遊び)
支え合い
安全・安心
防災
安全
安心・安全で住みやすい伊丹
救急・消防
障がい者の視点(点字ブロック)
子どもの安全、見守り
火事の無いまち
安心・安全なまち
食の安全、安心して食べれるまち
安心して暮らせるまちにしたい
犯罪の少ない街
バリアフリーの徹底
危機に強いまち
つながり
一軒家は横のつながり。マンションはつながり薄い
同じ時期に転入 隣保
家ぐるみの付き合い
14軒のつながり 自然と気づかい
共通のことがあればつながれる
みんなで時間を共有
居場所
中高年者
青少年
世代間のつながり
「民間」とは? お金・大企業・人のつながり・地域
人がつながるまち
地域コミュニケーションを楽しく出来る集いとする
自立支援は関係性の支援から = つながるまちづくり =
共生の仕組み(市民参加)、隣近所・世代間のつながり
引越多い 地域に根付いていない
認める
ひとりひとり対等であること みとめあう気持ち
ひとりひとりの多様性を対等に認める
男性も女性もイキイキと生活できる町
女性も能力を發揮できるように
自分のことが大切だと思える町
医療・健康
自転車 健康にも良い
医療まち時間長い
市民病院 ドクター確保に頑張る 救急医療は公で
病院
住みやすい「まち」小児医療(三市一町)小児救急センターなどはいいい ありがたい
産科検診費用補助
歩く習慣(健康づくり)
歩いて楽しい
市民病院をもっと活用したい
(空白)
人がやさしい
悪質業者へ地域の見守り
助けあえることでよりいい地域へ
おたがいさま
個人情報保護に過敏
人にやさしい
福祉
高齢者にやさしい

支援を受ける、来る人はまだよい
一人暮らしのお年寄りの情報が民生委員に知らされない
民生委員児童委員とのつながり(役割が)大きい
孤立しない させない / 高齢者 障害者 みんな
高齢者の見守り 民生委員児童委員が自分で地域を歩いて転入者などを探さなければいけない
若い人が元気になれるサポート
介護
在宅家庭への支援の強化
助け合いのできる街
まちづくりの担い手
自律
自分から飛び込む
高齢者の立場を高齢者自身が見つめなおす
市民1人1人がもっと何が出来るか考えよう
地域自治
近隣の自治会・子ども会
賃貸住まい 自治会って?
踏み出すいきかけは自治会
自治会立ち上げたいが 楽しいことを体験・一緒にやる
若い人が活動に入らない 予算でしぼりがある市の事業 興味があって勉強会 地域の概念のズレ 医療
南部と北部で環境違う
地域自治
地域活動
地域活動の主体
自治会
老人会
婦人会
地区社協
自治会に入る入らないの問題
自治会のメリット
自治会のデメリット
会費が必要など
老人クラブの組織・位置づけがはっきりしない
老人クラブの後継者が少ない
役員の負担が大きい 老人会に入る人が少なくなってきた
地域からの孤立を防ぐためにも、自治会・老人会は必要
自治会・PTA等(ボランティア組織)をわかりやすく、参加しやすい仕組みにしてほしい
会長 会員 活動が広がる
地域住民のために テーマ型活動
知る
得る
情報の入力をもっとオープンに、市民参画の入口をもっとオープンに
高齢者がどれだけ関心を持てるか?、電子化に押し切られている点があるので、そっぽを向く、読まない原因?
ホームページ、インターネット利用、高齢者には無理
市民にとってやさしいとは言えない部分もある。入りにくい。
行政 委託側:情報公開されていない
市政・情報を知ろうとする努力を高齢者が広げる
伊丹の良さを知って頂くための情報が少ない
中高年の活動しやすいPRの方法
情報の公開(市民サービス)とわかりやすさ。年齢に応じた情報の得る方法。
伝える
土地感ない人に向けてわかりやすく
広報紙、HP、ポータルサイト、講座他
広報紙のあり方
広報紙のあり方(豊中市の広報紙)
広報伊丹は、情報の入口、貴重な情報源
市民サービスの手段としているいろいろあるが、広報は大切なものである
市政に関心を持つて頂くためには、広報紙の充実を
老人クラブ連合会の広報紙に、もっと各クラブの活動内容等の紹介や市政の情報等を
老連だよりの内容に少しでも市政を載せることで、広報に視野がいくように考えて企画する必要を感じました
市民活動の情報も、もっとPRしたい
情報
市民への情報提供の工夫(広報を見やすくして欲しい)
情報紙を見やすく
情報共有は「わかりやすい」情報提供を
情報伝達方法(インターネット、電話、窓口) 数種類並列
情報の取り方、伝え方(個人情報、プライバシー)方向性を考える
共有する

市民への情報提供、情報の共有は十分か？
いろいろな情報あるけれど「知らない、わからない、わかりにくい、もっと充実を…」
みんなで情報を共有
リンクさせる仕組み
参画・協働
住民の参画(人と人との繋がり)
「行政サービス」は無敵大??
「行政サービス」って無限?
「市民の参画」は行政の手腕次第?
気持ちよく過ごすのは誰かが頑張ってる
言われたらすぐやる
社会的弱者も健常者も当事者である意識
できるときに できる人か(が?) できることをする気持ち
市民の力・使う「場」・ボランティアだけでは厳しい
市民と行政の協働のあり方
「市民」の力を信じて!多様な意見を受け入れる
行政サービスとは??
もっと市民参加型の市政運営
市民がもっと市のお金について話し合う
事業をおこす際は計画 完了まで市民が関わる
都市環境
環境
緑が多い 守ってほしい
ベットのフン モラル 処理のゴミ箱ある国も(ドイツ)
ゴミ
地球にやさしい低エネルギー
環境
緑
緑化
ごみ問題
昆陽池・端ヶ池
河川
公園
市内の緑化を市民の手で守る
自然エネルギーの活用
インフラ
走りやすい道路に
自転車とめる場所増やしてほしい
残してほしい市バス!!伊丹に市バスがあるなんてすごい
最近運転手さん親切
市バス 雨の日満員で止まってくれない
歩けるコース 作ってほしい
施設の予約しにくい
図書館の開館時間や、内容の充実を
お金をかけるのではなく、利便性の向上を
図書館の充実に対しての要望
話したいときに気軽に集えるセンター利用
歩きやすいまち
市バスを持つ地方自治体は少なく、維持すべき
施設が中心に集まっている
道路が整備され通勤する者は楽になった
市バスは便利なので続けて欲しい(無くさないで!)高齢者の足
歩道整備
道路整備
自転車道
歩けるまち
スポーツ施設の開放
施設の利用しやすさ
その他
伊丹は住みやすい
伊丹は良い町だ(インフラの充実・伊丹で働きたい(交通のアクセス))
地域はいいもの
消費生活・環境・まちづくり活動
伊丹市都市宣言(=基本理念)
あたりまえのことを充実する
伊丹市はコンパクトな街である
伊丹に住み続ける人が多い
外からみて魅力的なまちor住んでて魅力的なまち

資料 - 4 提言作成のもととなった事項(委員の意見)一覧

25平方キロメートル生かした街づくり
のどかな街・なごめる街
住みやすい街(道路・騒音)
普通が満足できる街
ベッタウンでもいいじゃない!
「夏まつり」「秋の運動会」地域と関わる 横のつながりを(地域)をどうとっていくか?

提言に込めた市民会議委員の想い

昨年から約1年間に渡り、様々な立場の方々と真剣に「熟議」をしながらつくりあげた提言には、一言では言い表せない想いが詰まっています。少子高齢化や地方分権化がますます進展する今後の10年間は、ある意味で厳しく、発想を転換すれば非常におもしろい時代になると思いますが、この1年間の熟議を通して学んだことを日々の業務に活かしながら、10年先をしっかりと見据えて仕事に取り組んでいきたいと思っています。

まちづくりはそこに暮らす市民が中心に考えるもの。という想いがより強くなった委員会でした。そのために市民がどう動くのかが重要なポイントになるのでしょうか。動き出したばかりの参画・協働によるまちづくり。試行錯誤を繰り返しながら、今後もこのような市民委員会がいるいろいろなところで活発に行われることが、まちづくりに必要だと考えさせられました。

一人の市民として応募し、常に市民目線を失わないよう心がけ、議論に参加してきました。

多様な市民が総意を見出していく過程は、楽しくもあり、遅々として進まず骨の折れることでもありましたが、市民自身の学習の場として「対話のルール」を大切にしながら、自らも担っていく「市民自治」の姿を体現する機会でもありました。

これからも市井の市民として、「焦らず・慌てず・諦めず」こつこつと歩んでいこうと考えています。

委員の皆さん・・・支えていただいた事務局の皆さんお疲れさまでした！

「笑顔あふれるまちをつくるため」

1．どんなん？

- ・「市民が創る」・・・市民自らが主体となり、行政や議会と共に理想の「まち」を創り上げる。
- ・「市民と議会が近づく」・・・市民は議会を知り、議会は市民に解り易く知られる様に互いに努力する。
- ・「子は宝」・・・将来を担う子供たちが、安心して育つ為の環境を整える。
- ・「アイデンティティーを持つ」・・・ふるさと伊丹の歴史と文化を守り伝える。

2．5つの条件

- 支え合える事
- すこやかに過ごせる事
- 安心安全である事
- 皆が同等に情報を得られる事
- 発展がある事

「高齢者社会」というと、白髪頭で杖をつき、腰を曲げた、ジーちゃん・パーちゃんのイメージがありました。現実には元気で活動をしている人が非常に

多くいる事に気がつきました。その反面、若者が心の病に悩み苦しみ「誰でもいいから・・・」という事件を起こしてしまう時代です。安心して生み、育てる環境づくり「お互いさま」と言って、できる人が、できる時に、できる事をして、すべての人が安心・安全に暮らせる地域をつくりたいと想い提言しました。

『10年後の伊丹』を考えるにあたり、『伊丹のよさ』とは何かを考えさせられた。沢山のやる気溢れる市民会議メンバーの皆さんと議論していくうちに、都市部にありながらどこか田舎チックで住み心地がよく、人も街も穏やかで長閑な伊丹がぼくは好きなんだとわかった。提言には、これからもっと素敵な伊丹となるように市民会議メンバーの想いが込められたと思っています。参加してよかったです。皆さん、ありがとうございました。

「お互いさま」は、暖かいひびき

常に「お互いさま」といえる環境がほしいですね。地域の中で日常安心な生活があたりまえのように送ってはいますが、現在少しずつ環境が変わり情報の確保、伝達そして個々の協力(たすけあい)がプライバシーの問題ありと先行し、なにか「お互いさま」の気持ちと行動が希薄になりがちです。

市民が暖かい雰囲気地域で広めることで本来のプライバシーも確保しながら「お互いさま」が合言葉になればと期待し、実践していきたい今です。

今回の市民会議では、市民だけでなく、行政の職員の方も「一市民」として会議に参加。市民と同様に横の関係で意見を言い、順番が回ってくれば司会、議事録作成、また原稿も執筆するという、まさに「市民と行政のパートナーシップ」！今までにない市民会議の運営で、この提言ができました。皆さんお疲れ様でした。

提言文が構成された後に作業グループに参加させていただきました。構成作業に携われなかったことは残念に思っています。

この会議の画期的なところは、市の若い職員8名が委員として参加していたことです。彼・彼女達の活躍を目の当たりにし、情熱一杯の人達が市政に携わってくれていることを知り、市民として本当に心強く感じました。

今後は、提言書が市政にどのように反映されるのか見守ることを楽しみにしています。

皆さま、お疲れ様でした。

私は、「市民が誇れる伊丹」にと思い委員になり、市の施策・状況の勉強会から参加してきました。

従来から住んでいる人、移り住んできた人、住んでいる地区、家族の状況等それぞれ異なる環境・思いの市民が、纏めた提言ですが、この提言が今後どのように施策化されていくのかを、よく勉強し、機会をとらえて参加していきたいと思っています。

北摂地区に「埋もれている市」ではなく、提言の中のうち、どれかは先進的な施策が進められ、市の状況が先進的なものになり、「誇れる伊丹」となることをと思っています。

自身が住む伊丹を微力ながらも、少しでも暮らしやすい町にとの思いで参加しまし

た。各メンバーの方々とまちづくりの色々なテーマに対する意見を聞き、考え方が本当に自身の住む環境により、こんなに違うものかと教えられました。そんな中で一時はどうなるのかと心配しましたが、作業グループの方々の努力により、立派な提言書が出来、自分も市民会議の一員であったことに誇りに思います。市民会議に参加して、行政に頼ることなく一緒に問題に取り組むことの大切さを、又そうできる仕組作りの必要性を痛感させられました。

我が町伊丹が、住民誰にとっても住みやすいと思える所であってほしい。特に高齢の方や障がいのある方が、自由にのびのびと活動できる町を思い描きました。情報入手もインターネットやメール等のみでなく、旧来の方法も残して欲しい。住んでいる人達はその状況に応じた住み方が無理なくできる町であってほしい。住民がごく自然に互いに手を差し伸べあえる町であってほしい。

伊丹市は一番住みやすいまちと感じている一市民です。
このまちは10年後どのように変わっていくのか、又出来ればこのような姿になってほしいとの想いで、総合計画策定市民会議に参加しました。
市民会議では、委員の皆さんの熱心な討議と、まちを想う心に大きな感動をおぼえました。これからも伊丹は住みやすいまち、安全で安心して暮らせるまち、そして歴史・文化の香るまち等、いついつまでも持ち続けていきたいなと思いました。

私は、これからの「いたみ」は、市民と行政、議会とが協力しながら運営していく仕組が必要だと考えています。
人と人が出来ることをして支え合い、全ての人・子どもがイキイキと暮らすことが出来るならどんなにいいことでしょう。
10年後には提言に掲げた仕組が軌道に乗っていること、そして一人ひとりが「お互い助け合おう！住みよい町にしよう」と思え、笑顔があふれるまちになっていることを願っています。

「自分たちのまちの将来を決める」重要な政策策定の一端に参加することが出来たことはきわめて重要であり、有難い機会を得たと思っています。日頃は、地域のことに関わる機会を持っていなかったのが、この委員会に参加することをきっかけに積極的に関わらなければならぬとの思いがわいてきました。提言をするだけでなく、自分たちのまちは自分たちで見守り続けなければとの思いが高まってきました。これからも関わる機会があれば、参加したいと思います。

自分の人生に生きがいを持って、市民活動を積極的に推進していき、子どもの安全、高齢者の見守り、福祉活動の推進、美しいまちづくり、防犯・防災活動に参加意識を大切に、地域の絆を一層深めて、地域の一員として、仲間づくり、助け合い精神のもと、存在感をもって日常生活の躍進に努めましょう。

約1年間にわたり、さまざまな立場・視点から議論を重ね、10年後の伊丹市の将来像を考えてきました。近年、「環境」という分野の問題がクローズアップされてきていますが、「環境問題」の解決には、一人ひとりの意識と行動が重要になってきます。今後、誰もが安心・安全で住みやすいまちづくりを築いていくためにも、「気づき」を大切にしながら、この1年間で学んだことを活かし仕事に携わっていきたいと思います。

「市民」として考えをまとめるという作業は、多様な考え方や立場の声の「折り合い」をつける作業でした。また「民主的な熟議」のあり方についても深く考えさせられました。その中で「～なったらいいな」ではなく「～したいな」という想いを強く感じました。今後のこの提言がどういう形で具体化されていくか、計画に関わった市民の一人として、しっかり見届けていきたいと思います。

私は大好きな街「伊丹」が、もっともっと楽しく暮らせ、関わる人皆の心に残り、ぐっとくる街になってほしいという思いから、この提言書の作成に参加しました。一人一人を大切に、互いに思い繋がりあえる、そんな素敵な人々がつくっていく伊丹の中で、安心して暮らし成長できる。これから育っていく子供達にとって魅力のあふれる伊丹であり続けて欲しい。そして皆でもっと伊丹を身近に感じていきたいという想いを込めました。

伊丹に移り住んで15年。今ではとても自分に馴染んで愛着のある大好きなまちになっています。そんな伊丹の10年後を考えるこの会に参加させていただき、初めて知った伊丹の歴史や文化等々自分にとって学ぶことが多かったです。

また11ヶ月間同じ時間を過ごした委員のみなさんとの繋がりはとても心地良く、市民力の凄さをヒシヒシと感ずることができました。この先の伊丹...誰もが安心して笑顔で暮らせるまち、自分が主役となって輝けるまちになれたらと思います。

これからも微力ながら、自分に出来ることを探してまちづくりに関わっていききたいと思います。11ヶ月ありがとうございました。

今、熟議による市民自治や新しい公共への意識が高まっています。市民会議が、敢えて座長をおかず、議論を深めていくための様々な手法がとられたこと、市民会議案を市民に問い、パブリックコメントを求められたこと等、市民会議の場はまさに市民自治についての恰好の学びの場でした。お互いさまをキーワードに、本市が進む向こう10年の大枠である総合計画を市民各層のみなさんと一緒に作った経験を現場で生かしたいと思っています。

去年の11月から今年の9月まで、あっという間だったような気もする一方で、産みの苦しみも感じた11ヶ月でした。今後は、この提言が具体的にどう伊丹市の有り方に影響してくるのかを注目したいと思います。また、ここで一緒になった方々との出会いも大切に伊丹市をより魅力的にするべく手をとりあって何か面白いこと出来たらいいですね。

10年後の伊丹市の将来像や方向性について、まちづくりの当事者である市民が熟議を重ねることによって作りあげたこのプロセスこそ、これからまちづくりを進めていくうえで非常に重要なことであり、また、この提言書の内容は本当に大切な視点等が詰まったものだと思います。

途中、この会がどのように進んでいくのか、見通しがつかず不安もありましたが、委員全員で乗り越え作りあげたこの提言書は、委員の熱い想いの結晶だと思います。

長くて短い11ヶ月。たくさんの人に出会い、多様な考えや想いに触れて、ますます伊丹が好きになりました。

この会議に参加でき、市民委員の皆さんと出会えたことは、大きな宝です。皆さん、ありがとうございました。

10年後に同窓会がしたいですね。皆で語った10年後の伊丹を、皆で歩いてみたいなあ。